

茨城県畜産センターのアニマルウェルフェアに関する取り組み

茨城県畜産センターでは、令和5年7月に、国でアニマルウェルフェアに関する指針（※）が策定されたことを受け、令和5年8月3日にアニマルウェルフェアの取組状況について、外部有識者による調査を実施しました。

有識者の調査結果

- ・ 飼養家畜について対人反応は良好
- ・ 畜舎全体が静穏に維持されている
- ・ 日常管理状況の良好性が示唆
- ・ 施設・管理のいくつかの点で改善項目を認める

改善項目

- ①乳牛舎におけるフリーストールベッドの安楽性確保
- ②肉用牛舎糞尿溝をグレーチングにより全面被覆
- ③パドックへの日よけ設置
- ④鼻環の固定



有識者から指摘された改善項目については、以下の通り対応しました。

※国際獣疫事務局の陸生動物衛生規約におけるアニマルウェルフェアの国際基準を踏まえた家畜の飼養管理の推進について（令和5年7月26日付5畜産第1062号）

改善項目① 乳牛舎におけるフリーストールベッドの安楽性確保



フリーストールベッドについては、常に写真のような状態になるよう、**こまめに掘り起こし**を実施することで、**安楽性を確保**しました。

改善項目② 肉用牛舎糞尿溝をグレーチングにより全面被覆



糞尿溝をグレーチングで隙間なく全面被覆することで、安全性を確保しました。

改善項目③ パドックへの日よけ設置



パドックへ日よけを設置することで、快適性を確保しました。

改善項目④ 鼻環の固定



鼻環を帆上げして固定することで、事故を未然に防止する体制をとりました。

◎その他、自主的に改善した点

- 子牛のストレスを低減させるため、**鎮痛剤と除角ペースト**により除角を行っています。
- 搾乳や削蹄などの誘導の際は、棒などの道具を使わず、**声かけと手による誘導**を行っています。
- 牛舎のパドックは、降雨後のぬかるみ防止のため、山砂を中央に寄せ**築山を設置**したり、山砂の投入頻度を増やすことで**水はけの良い状態**を保っています。



アニマルウェルフェアへの対応強化（令和6年度～）

これまで畜産センターでは、（公社）畜産技術協会や国のアニマルウェルフェアに関する指針に基づき、適切な飼養管理体制に努めてまいりましたが、令和6年度から「アニマルウェルフェア推進チーム」を設置し、畜産センターとしてさらに取組を推進してまいります。

<取組内容>

- （1）外部専門家による調査・確認
- （2）指針のチェックシートに基づく自主チェックの実施
- （3）畜産センター各所の取組状況の確認と課題の抽出
- （4）職員を対象とした勉強会の開催
- （5）アニマルウェルフェアに係る情報の収集



引き続き家畜の飼養環境の向上に取り組んでまいります。